

V27a 兵庫県立西はりま天文台 2 m 望遠鏡計画の概要

黒田武彦、圓谷文明、石田俊人、時政典孝、鳴沢真也、坂元誠、尾崎忍夫（兵庫県立西はりま天文台）

1990年4月に、口径60cmを主力とする公開天文台として開設された西はりま天文台では、当初より次なる計画として口径1.5m以上の望遠鏡を目指してきた。94年12月県議会において計画推進の知事答弁を得たものの翌年1月の兵庫県南部地震において頓挫、ようやく97年度から調査費が計上され仕様の検討を重ねた結果、2001年4月に本予算が認められ、実質的に計画がスタートした。

施設の設置目的、性格を踏まえ、次の諸点に留意し、計画の具体化にあたった。

1. 教育・普及用として一流の情報が得られるとともに、一般の人々にアピールできる画像データが取得できること
2. 比較的少数のマンパワーでも運用できること
3. 日本の気象条件を考え、短時間でデータが取得できるシステムであること
4. 一流の研究観測が可能な仕様であること
5. 上記条件を満たした上で、可能な限り低廉であること

この計画において製作、設置する望遠鏡は口径2m経緯儀で、観測装置として3波長同時観測近赤外線カメラ、可視分光器、可視冷却CCDカメラ、超高感度高画質カラービデオカメラ、眼視観望装置を備え、観測統合制御システムを導入して、これらを一括管理する。それぞれの詳細については個別に報告を行う。

本講演では、計画の全体的な概要を報告し、運用にあたっての考え方等も紹介する。